

金城学院幼稚園 2025年度

こどもニュース

11.20

発行

No. 11

【クリスマスに向けて～献金袋】

10月に入り、運動会が終わったと思ったら…なんだか急に肌寒くなりましたね。気付けばもう11月半ば?! 来月はクリスマス?! と、時の流れの速さに驚いています。日々めまぐるしく過ぎていきますが、幼稚園では、少しずつクリスマスに向けての準備が始まりました。その一つとして、クリスマスのための“献金袋”作りをしました。

毎週水曜日の礼拝でお捧げをするために持ってきている献金袋。「献金はどんな風に準備している?」と子ども達に聞くと「自分のお小遣いを入れている」と言う子もいましたが、「お母さんが用意してくれてるよ。」と言う子がほとんどでした。これまでも献金について、子ども達と話をしてきていましたが、献金の意味をあまりよくわかっていなかった子もいたと思います。そこで今回、改めて献金とはどんなものか、子どもたちとじっくり話をしました。

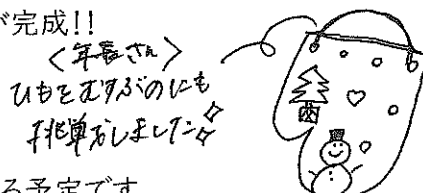
「みんながかみさまにありがとうって思う時はどんな時だろう?」と聞くと、「お友達と喧嘩せずに遊べた時」「おいしいご飯が食べられた時」「季節の移り変わりを感じられた時」と様々な『ありがとう』を聞くことができました。そして『ありがとう』の気持ちを、献金としてお捧げしたいねと子どもたちに伝えました。更に、クリスマス献金は『クリスマスの喜びを分かち合うこと』『神さまの恵みへの感謝を込めて特別に捧げられるもの』だということも伝えました。是非ご家庭でも、世界中で困っている人たちのことを思い、何かできる事はないかと一緒に考え、その思いを献金に託して頂けたらと思います。

きょうは
ともだちと
なにかよくあそんで
うれしかったよ。
かみさま、ありがとう!!



おいしいごはんを
食べるのができて
かんしゃします。
かみさま
ありがとう。

今年子どもたちが作った献金袋は、手袋の形をした献金袋です！
まずは手袋型に画用紙を切りました。切るのが難しい年少さんの分を代わりに切ってくれていた年中さん、年長さん♡その後は、サインペンで雪だるまや雪の結晶、チョコレートなど、好きな絵を描きました♪★や♡のシールを貼って飾り付けも♪「ここにはこれを描こうかな？」「もっとこうしたほうがいいかな？」と時間めいっぱい使ってサインペン画を楽しんでいました。最後にのりをつけて、手袋の形の献金袋が完成!!



完成した献金箱は11月21日(金)に持ち帰る予定です。
12月20日(土)にアニー・ランドルフ記念講堂で行われる親子礼拝の時に、受付で献金をお渡しください。皆様から受け取ったクリスマス献金を、礼拝の中で神さまにお捧げ致します。親子礼拝当日は、子どもたちが作った袋ではなく、別の入れ物に献金を移して持ってきて頂いても構いません。みんなの「ありがとう」や「うれしいな」の気持ちが、クリスマス献金として神さまに届きますように……★

＊お捧げしたクリスマス献金は〈愛知県ユニセフ協会〉〈小さいのちを守る会〉〈日本聾話学校〉などの施設に金城学院を通して寄付をしております。(あま)



「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」

(ルカによる福音書 2 章 11 節)

子どもたちの礼拝で質問したことがあります。「クリスマスって何でしょう?」すると、ある子が「神さまからのプレゼント!」と答えてくれました。まさにその通り!

私たちはプレゼントと聞くと、「品物」を思い浮かべるのではないのでしょうか。けれどもプレゼントの語源には「存在」という意味もあるそうです。クリスマスは、まさしく「神さまの存在そのもの」が贈られた出来事でした。

そのプレゼントをまっさきに受け取ったのが羊飼いたち。彼らは雇われの身。獣が出たら命と引き換えに、雇い主の羊を守ることが求められています。その存在は羊以下…。そう思われていたでしょうか。あるいは自分でそう思っていたでしょうか。孤独です。彼らは羊の番をしながら町の明かりを見て「奴らはいいな」と思っています。

そこへ天使の大群が現れ、「あなたがたのために救い主は来られた!」と告げるのです。「あなたのために」。それはつまり「あなた、というその存在を神が見失っていない」ということ。だから「あなたに、助け手を送る」ということでした。

私たちは羊飼いととはまるで違う暮らしをしています。けれども私には子育てに疲れて心に闇を抱えることがあります。周りのお母さんたちの笑顔がまぶしく見えて、自分の闇が深まる日もあります。母として悩み、女性として悩み、働き人として悩み、「自分って何なんだろう」と、この存在をひっそりと苦しむのです。

まさしく私が抱えるその闇にイエスさまが贈られました。神さまが「あなたのその存在が私にはどうしようもなく大切だ」と助け手をプレゼントしてくださったのです。

「神があなたの存在を見失っていない」、「あなたの存在がここにあって嬉しい」。この神さまの思いがイエスさまの誕生を通して知らされる私たちです。メリークリスマス!

(山田麻衣子)





クリスマスにまつわる言葉



幼稚園では 11 月 26 日(水)の礼拝から、アドベントに入り、クリスマスを待ち望み準備する季節となりました。最近では、クリスマスに関係する様々な言葉も身近になってきましたね。聞き覚えのあるものも、本当はどんな意味なのだろう…と気になることもあるのではないのでしょうか。イエス様がこの世に生まれてくださった意味を「クリスマスにまつわる言葉」を通して考えてみませんか。

アドベントクランツ

クランツは花、または葉の環状の編み物・花輪・葉環の意味です。常緑樹の枝で環(輪)を作り、ろうそくを立てたものです。

常緑樹の緑の環は「神様の永遠」を、ろうそくはキリストが「世の光」として来られる喜びを意味しています。常緑樹にはモミの木、ヒイラギ、カイズカイブキ、スギなどがよく使われます。

アドベントカレンダー

アドベントの期間、一つずつカレンダーをめくるようにし、イエス様を心に迎える準備をするものです。市販されているものは、12 月 1 日から 1 日ひとつ、日にちの部分を開けていくものが多いようです。

幼稚園では、ひとりひとつずつ作った飾りを毎日飾りつけていき、全員が飾り終える日が讃美礼拝の日となるようにしています。

「今日は誰が飾るのかな」「私はいつ飾るのかな」とワクワクした気持ちで「待つ」ことこそ、遠い昔ユダヤの人々が、救い主の到来を待ったのと同じような思いにつながるのではないのでしょうか。

ハレルヤ

ハレルヤとは、ヘブライ語で「主をほめたたえよ」という意味です。ヘンデルのメサイアに出てくる「ハレルヤコーラス」は、どこかで聞かれたことがありませんか？

幼稚園では、讃美礼拝での一つひとつの事柄を子ども達に伝えていく時間を「ハレルヤ」と呼んでいます。それは「本当のクリスマスを知る時間」「自分に与えられたクリスマスの役割について知る時間」そして「クリスマスの喜びをありがとう!と讃美する時間」と考えています。

ハレルヤが始まると、「クリスマスブック」というイエス様誕生のお話を書かれたオリジナルブックをもらいます。ご家庭でも一緒に読んだり、讃美歌を歌ったり、親子で楽しみながらクリスマスまで準備してくださいね。また、幼稚園でも毎日使いますからリュックの中に入れてきてください。

